

AAA 式多機関ケースカンファレンス方法についての研修アンケート結果(2017 年度版)

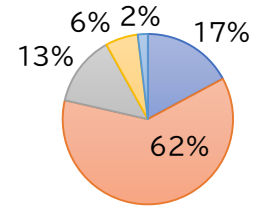
調査の概要:

対象:「AAA 多機関ケースカンファレンスの方法」の研修に参加し、調査の趣旨にご理解いただいた方

調査方法:研修会場で無記名自己記入式調査票を配布、回収。

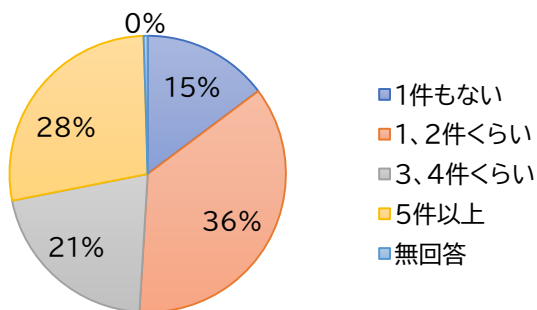
分析対象者 210 人(行政 36 人、地域包括支援センター129 人、居宅介護支援事業所 28 人、在宅介護支援センター13 人、無回答 4 人)

回答者の所属機関



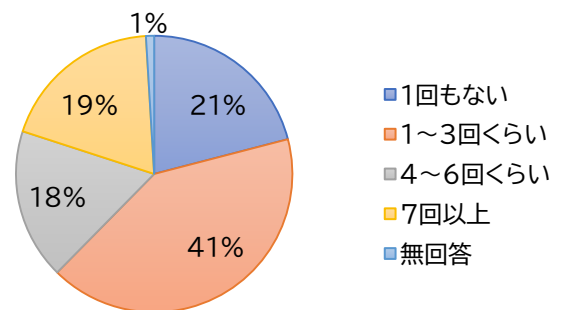
■行政 ■包括 ■居宅 ■在支 ■無回答

過去半年間に担当した養護者による高齢者虐待事例



■1件もない
■1、2件くらい
■3、4件くらい
■5件以上
■無回答

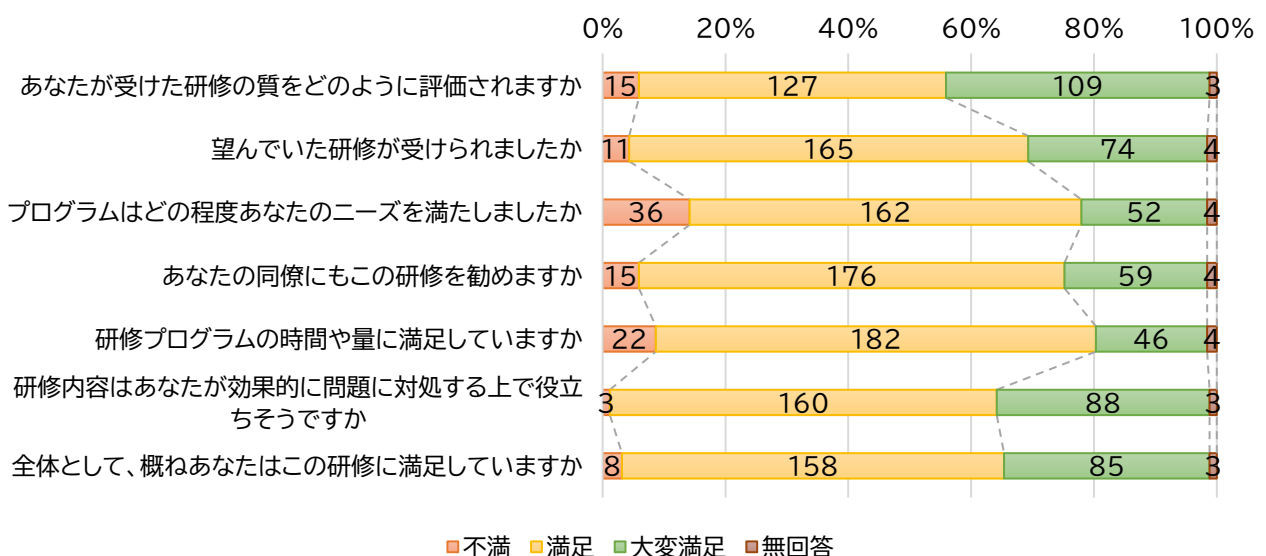
過去半年間に参加した高齢者虐待対応のためのカンファレンス回数



■1回もない
■1~3回くらい
■4~6回くらい
■7回以上
■無回答

虐待事例の対応が過去半年間で1、2件以下で約半数でしたが5件以上という方も4分の1を超えていました。カンファレンス回数は、過去半年間で1回もない人が22%いましたが、1~3回で40%を占めました。7回以上という高頻度の人でも2割に達していました。

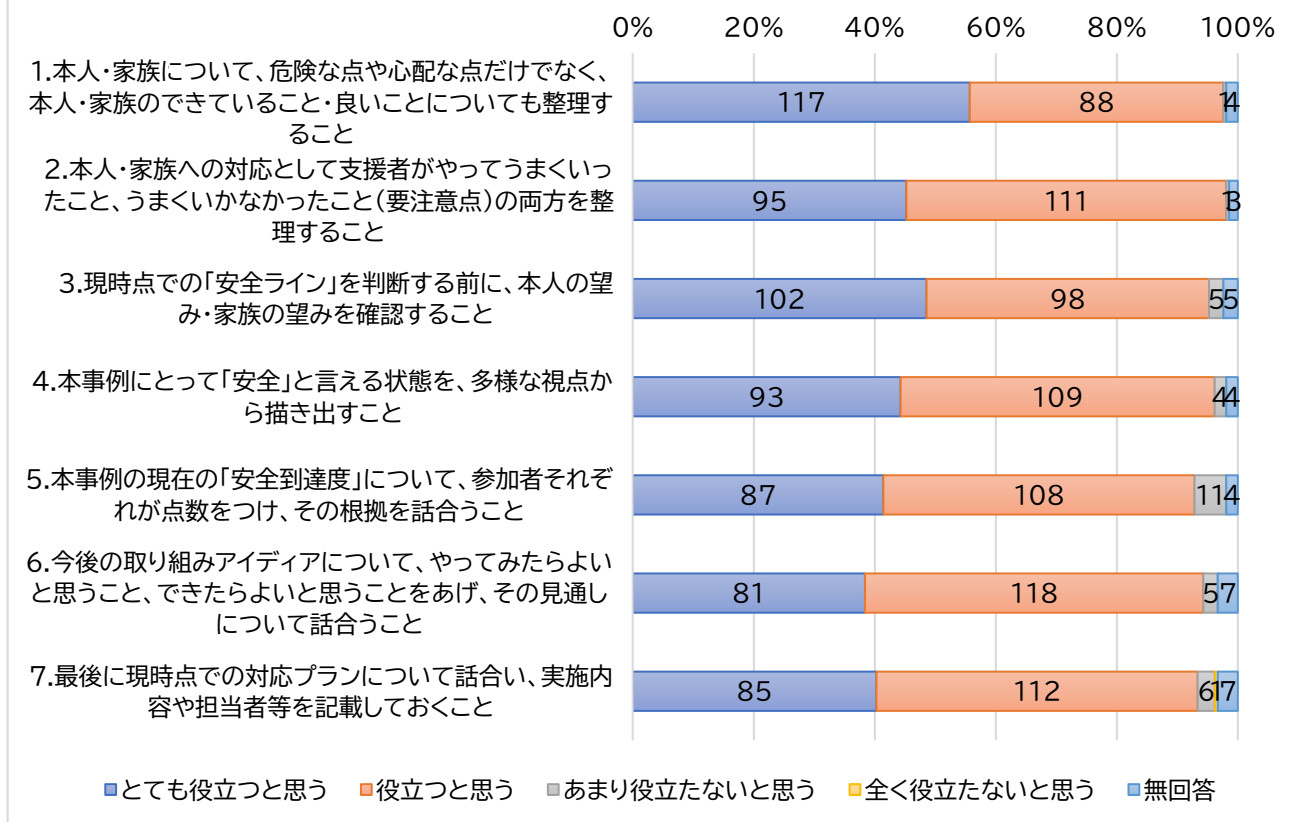
研修終了後の満足度評価



研修プログラムへの満足度は、4段階で尋ねましたが「大変不満」に相当する選択肢を選んだ人はなく、お

おむね高い満足度が得られました。ただし「ニーズが満たされなかった」「時間や量に不満が残る」という参加者はおり、「ケースカンファレンスの方法を研修する」ことの難しさを改めて考えさせられます。

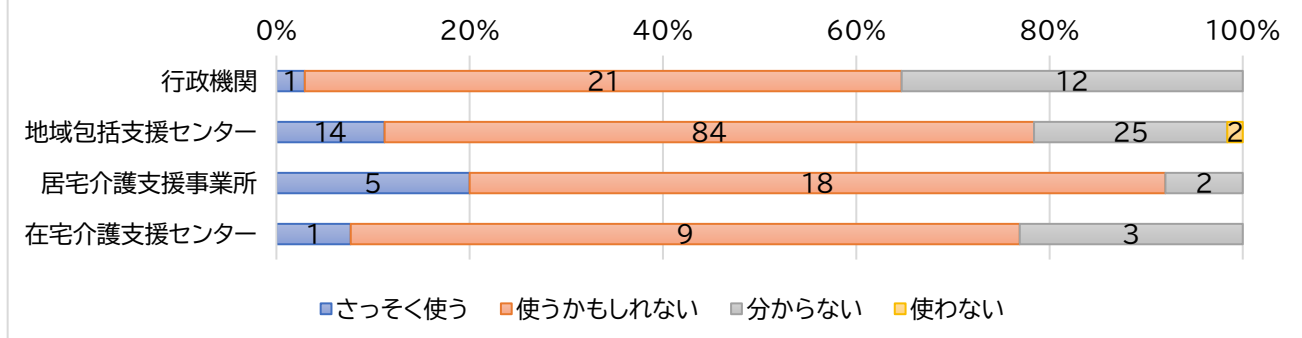
カンファレンスシートの各項目の役立ち度評価



各項目についてそれぞれ「とても役立つ」「役立つ」という評価がなされました。特に「できていること・良いこと」を整理することや「本人の望み・家族の望み」、「支援者のやってうまくいったこと・行かなかったことの整理」「安全像を描き出す」ことが「とても役立つ」という回答が多くなっていました。

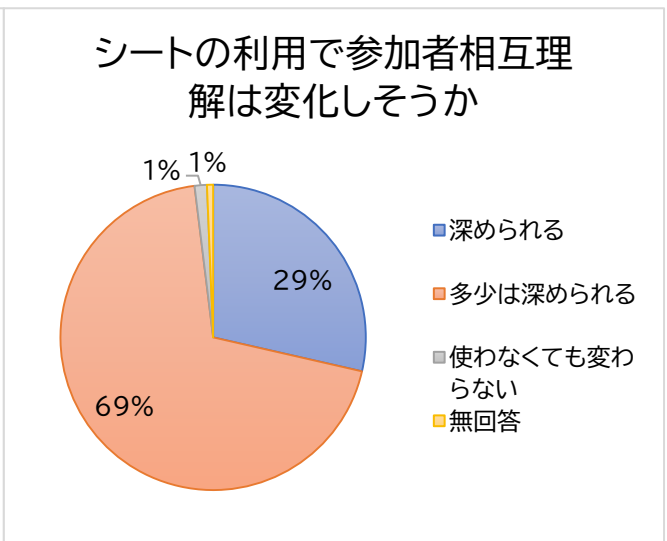
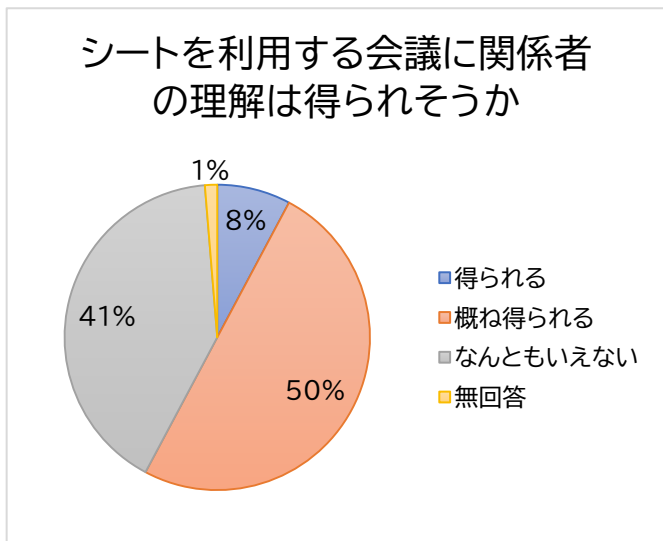
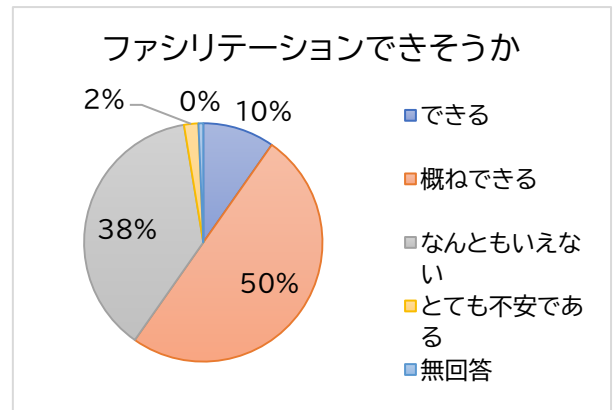
一方で「安全到達度」の点数付けや「本人の望み・家族の望み」、「現時点でのプラン」については役立たないという回答する者がわずかに見られましたが、その多くが地域包括支援センターの所属でした。既に聴いているということかもしれませんし、そんなことを聴く余裕がないとお感じなのかもしれません。

AAA式CCシートを実際に使いたい

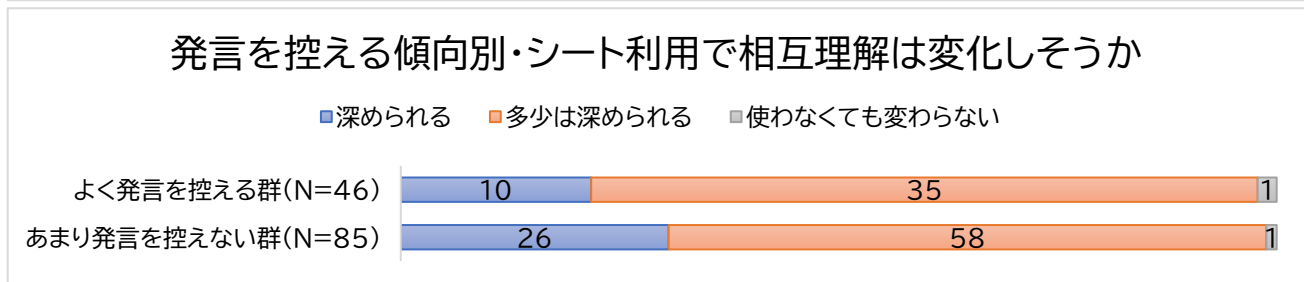
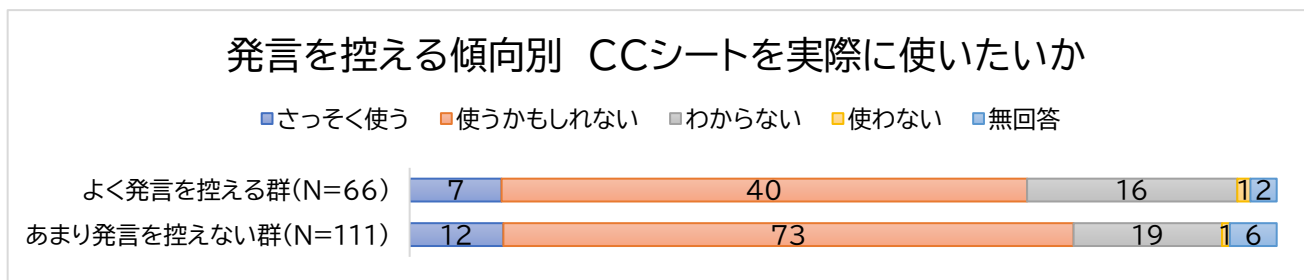


AAA 式カンファレンスシートを使いたい、という設問に対しては多くが「使うかもしれない」と答えていましたが、居宅介護支援事業所や地域包括支援センターでは「使わない」を選んだ方も少数みられました。

使う可能性のある方 154 人にシートの使用に関連して追加の質問をしました。CCシートを使ったファシリテーションに関しては、できる・概ねできるという方が約 6 割に達していました。実際に使うなら、シートを利用することに関係者の理解を得られると思っている方は過半数に達していました。またシートを利用することで参加者同士のお互いの理解は変化しそうか、という問いに対しては「深められる」が 3 割弱、「多少は深められる」が 7 割弱と多くが肯定的に評価していました。



シートを使うことで話しやすく相互理解を深めやすいと期待できる効果は、会議中に発言を控えがちな人からも期待されています。研修前の調査項目で会議の時に対立したりもめたりしたときに「発言を控える」かどうかを尋ねた項目があります。よく発言を控える傾向がある人の多くがシートを使うかもしれないと答え、さらに参加者同士の相互理解についても多くが「多少は深められる」と答えており、発言を控えない人たちと比べても違いがみられませんでした。発言を控えがちな人にとっても使いやすいものなのです。



ご協力ありがとうございました。引き続きよろしくお願い申し上げます。